

俳句片々 (四)

薄月に花葱けむる彌生かな
五三桐

葱の花はふつくりした、房々
から見ては余り綺麗な花ではない
が、澤山亂さ競ふて頭を重々
しき感じられます。「花葱けむ
る」薄霞が薄月の中に、霧々と
した彌生の氣持が充分に、如意
に生きる。【薄月に】彌生哉

したが、澤山亂さ競ふて頭を重々
しき感じられます。「花葱けむ
る」薄月に花葱けむる彌生かな
五三桐

者に適當に解釋した。

花一刻千金の喰ひ、春燎煙の
の麗かに醉ふた、行樂に人々皆
日暮まで遊びて、日暮るゝを忘
れ、そぞろに思はれてゐる折、
が響いて來た。花見人「おや鐘
がなる」初めて彼等の心に一
何處でついたのか夕までれの鐘
鐘は上野か淺草か」と芭蕉翁の
詠えた句に類似した共通的な意
抹の精氣を醒ました。「花曇り
合である。三春行樂の夢醉を醒
した情景が句面躍として現れ
て居る。

あつて、季題の扱ひ方に伸びに
巧妙な句趣があります。「薄月
「けむる」は春の表徴であります
して、可成りに深意が籠つたも
のだ、此句は本質から「花葱け
むる」が生命である「彌生」「薄
月」は決して本質と見るには弱
く感じられる、たゞ概念的に見
て支障がない。

椿杭に鶴なくや水麗ら
春のタラヂオに立てる病婦か
月を上げ嶺潤ふや宵の春
寝たる子の夜着撫で見る寒
さ哉

× × ×

如庵 東涯 山路 草村

前者、後者の場合性質こそ異
れど、動物愛の如意が流露し
てある、總括的に窓はれてある
大鷹に夕鏡つくや花の中

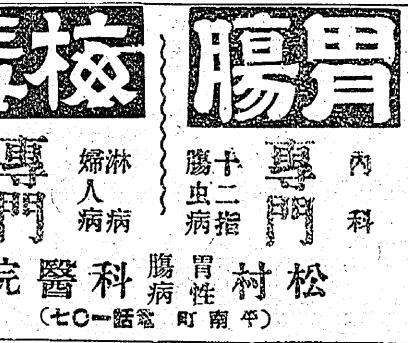
「大鷹に」形式的な觀察、「夕
鏡つくや花の中」が本体であつ
て、句趣的觀察が連想され、後

白銀町 加藤營業所
同 柳町 同 同 同 同 同 同
同 風呂場附 同 同 同 同 同
同 小島 勤人向 商店向
同 同 同 商店向
同 勤人向 商店向
同 勤人向 商店向
同 同 同 同 同 同

白銀町 同 同 同 同 同
同 仲間町 同 同 同
同 平和な村 同
平和な村 同
平一出羽 武雄
平和な日が續いていた、空は
青く澄んで大空高く聲を限り
に、囁づる雲雀を連山の重疊
が淡く黒くかすむ夕方頃多く

時報文藝

貸家案内



住宅向き
商店向き
委細面談
中野勇吉

眞に恐るべき
中風に脳溢血を
動脈硬化症
◆いかにして豫防するか
◆いかにして治療するか
平町田町宇佐美薬剤士に相談下さい
定價二圓八十錢
電話八二七番です

中風根治薬
京都桂屋の
家傳

電話八四七番

御禮に併せて
這般近火に際し弊館も類焼せる如く傳へられ
種々御芳情を賜りたり候へごも右は全く
の誤傳にして各位の御庇護により幸ひ類焼
を免れ平常通り營業致したり候間何幸ひ御心
置きなく倍舊の御愛顧を懇願仕り候
昭和四年六月

大歌舞
助演者 高木永二、鈴川和子、三樹豊、戸田春子、神戸光
瀬良章太郎、其他

怪異戯
主導廣瀬恒美
月活大作キンド連載
原作・清水隆二
監督・淺岡信夫

月六十四日替り (プロダラム)
◆松竹映畫 原作・前田孤泉
主演・阪東壽之助 監督・星哲六
相馬一平、正宗新九郎、關換、浦波須磨子、千里
晶子、若月孔若、其他

火事
火事
火事

劍聖

塙原小太郎
土曜
日活松竹
原作・佛生寺彌作
監督・澤田清
主演・澤田清
原作・藤野龍太郎、川上彌生、山田純三郎、其他

戦王
火事

火事
火事
火事

アイスクリーム・ミルクセーキ
其他清涼飲料物一式(電力應用)

市 氷水始
まし
た
平
館
電
466

アイスクリーム・ミルクセーキ
其他清涼飲料物一式(電力應用)

市 氷水始
まし
た
平
館
電
466

アイスクリーム・ミルクセーキ
其他清涼飲料物一式(電力應用)

市 氷水始
まし
た
平
館
電
466

夏の學生服
丈夫デ型ガ良ク色ノサヌ
夏服ガ澤山揃ヒマシタ.....

小學生用
中學生用(極上品)
中學生用
中學生用

なつかや洋服店
平二丁目 電話二〇三

夏の學生服
丈夫デ型ガ良ク色ノサヌ
夏服ガ澤山揃ヒマシタ.....

小學生用
中學生用(極上品)
中學生用
中學生用

なつかや洋服店
平二丁目 電話二〇三